

# 交通安全教育資料

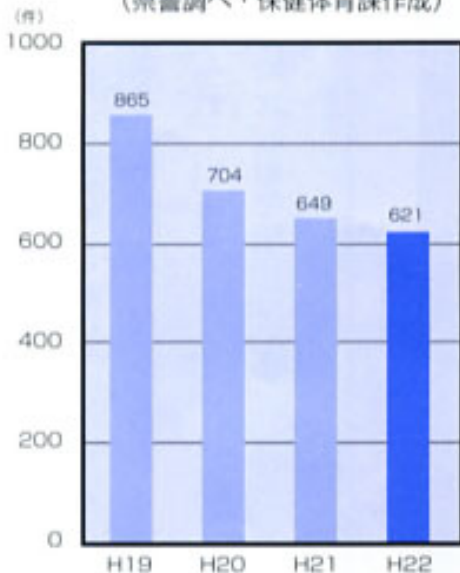


特集

## 「スタートかながわ」 その具体的な取組

### 県内高校生の交通事故発生件数 (1~4月)の推移

(県警調べ・保健体育課作成)



また、状態別では、死傷者五六一人中、二輪車乗車中が二七八人(三二%)、自転車乗車中が二六九人(四八%)と、今年も自転車による事故の割り合いが多いことがわかります。

さて、四月から新たにみんなの交通安全教育推進運動「スタートかながわ」が始まりました。児童生徒の交通事故防止に向けて、各校でのさまざまな対応策が求められています。

### 今年、まだ12件の死亡事故

県警によると、今年一月から四月までに県内高校生の交通事故は六二二件発生しました。これは、昨年と比べて減少傾向にあります。死亡事故を見てみると、今年はまだ二件発生しており、予断を許さない状況にあるといえます。

死亡事故例のひとつはバイク乗車中に交差点でトラックと衝突したもので、もうひとつは横断歩道を横断中に乗用車にはねられるというものでした。

# 「スタートかながわ」その具体的な取組

平成二十二年四月より、みんなの交通安全教育推進運動「スタートかながわ」が始まりました。これは今まで推進されてきた「かながわ新運動」を継承・発展させたもので、小学校・中学校・高等学校各段階での系統的な交通安全教育を行っていくことや学校・保護者ともに地域・関係機関との協力・連携を図ることなどが掲げられています。  
ここでは、県内のさまざまな地区ですで行われている「スタートかながわ」の具体的な取組を紹介いたします。

## 取組例①

### 老人ホームへの出張交通安全教室

(県立川崎工科高校)

四月、県立川崎工科高校の生徒会役員四人が、市内にある特別養護老人ホームを訪れ、ライナービスの高齢者三人に対して交通安全教室を開催しました。これは、神奈川県警の交通安全教育隊から高齢者への交通安全の働きかけを依頼されたことによる行われました。

生徒たちは、高齢者に回って自分自身の体験談を語ったり、「高齢者は自宅から五〇メートル以内の事故が多い」など、県警発表の資料などで調べたことを説明しました。



た。お年寄りの事故が二件でも多く減ってほしい」と話していました。

## 取組例②

### 小・中と連携した交通安全講習会

(県立藤沢清流高校)

六月十五日(火)、藤沢清流高校では小・中高合同の交通安全講習会が開催されました。これは、「スタートかながわ」を受けて、藤沢清流高校が近隣にある清水小学校と大清水中学校の職員やPTAに参加を呼びかけて実現しました。  
この日は、佐川急便の協力のもと、生徒たちが見守る中、実物の自動車を使用した死角の確認や左折巻き込みの事故などが再現されました。「スタートかながわ」では、児童生徒の発達段階を踏まえた交通安全指導の実施がうたわれています。

この日は、佐川急便の協力のもと、生徒たちが見守る中、実物の自動車を使用した死角の確認や左折巻き込みの事故などが再現されました。「スタートかながわ」では、児童生徒の発達段階を踏まえた交通安全指導の実施がうたわれています。



## 取組例③

### 相模原地区 交通安全デー

～安全・安心な地域を目指して～

去る五月十二日(水)、相模原地区において、相模原市内の高校・PTA・大学・警察・市役所・交通安全協会・地域の方々が協力し、地域の安全を守る「相模原地区交通安全デー」が実施されました。

相模原市が「自転車マナーアップ強化月間」中ということもあり、自転車利用者に対する交通ルールの遵守とマナーアップが呼びかけられました。

この取り組みは、麻溝台高校と北里大学による合同の交通安全啓発活動がきっかけで始まったもので、さらに近隣の高校にも参加を呼びかける中で輪が広がり、地域のさ

まざまな団体が参加するようになりました。

各高校や大学、PTA・地域がそれまでに取り組んできたことを同じ日に一斉に行うことで、当日は相模原市内のいたる所で交通ルールの遵守とマナーアップの声を聞くことができました。また、警察署の企画による一日警察官という取組を行った高校もあり、本物の制服を着ることができ、生徒たちからは大好評でした。

次回は十月十三日(水)に実施が予定されています。

## 取組例④

### 小学校低学年児童への「交通安全教室」

(県立秦野総合高校)

秦野総合高校では、「社会福祉基礎」という授業の中で、高校生が小学二年の児童を対象に、交通安全における先輩として交通安全教室を行いました。  
当日は、クラスの児童を班に分け、高校生が四人一組になり、班ごとに自作のパネルシアターや歌遊び、手品などを披露し、児童たちに交通安全を訴えました。これは、県交通安全対策課が行っている幼児対象の交通安全教育を参考に、同課の指導員の指導を受けながら、高校生が授業の中で約二カ月間準備を重ねてきました。小学校の児童や教員からは「楽しかった」「ま

当日は、クラスの児童を班に分け、高校生が四人一組になり、班ごとに自作のパネルシアターや歌遊び、手品などを披露し、児童たちに交通安全を訴えました。これは、県交通安全対策課が行っている幼児対象の交通安全教育を参考に、同課の指導員の指導を受けながら、高校生が授業の中で約二カ月間準備を重ねてきました。小学校の児童や教員からは「楽しかった」「ま



今後、特別支援学級での交通安全教室の実施も考えていく予定です。



## 相手を思いやらない人

私は、どうやったら交通事故を減らすことができるのか考えてみました。交通事故を減らす為に、例えばガードレールや道路などにいろいろと工夫したり、法律で罰則を強化したりしますが、国がどんなに交通事故を減らす為に努力しても、交通事故は全然減りません。

何故なら、交通事故を起こすのは、「車」でも「自転車」でも「歩行者」でもなく、「人」なのです。「人」には、一人ひとり心があります。外からの力や法律で、その一人ひとりの心や感情をコントロールすることはとても難しいことです。

それならば、私たちが交通事故を減らす方法はないのでしょうか？答えはあります。交通事故を減らす方法、それは、私たち一人ひとりが、思いやりの心を持つことです。歩行者、車、自転車、誰もが常に、車はどうしたいのか、歩行者はどうしたいのか、自転車はどうしたいのか、考えることです。

例えば、最近では、横断歩道に歩行者がいるのに無視をして止まってくれない車が多いです。

これはドライバーが自分のことしか考えていないからです。早くいかなきゃ、止まらなくても問題ないだろう。そんな訳はないのです。横断歩道にいるからには、渡りたいのです。少し考えれば、わかることだと思えます。歩行者や自転車にもこれは言えることです。相手がどうしたいのか、次はどのような行動をとるのか、相手のことを考えて行動すれば、交通事故は減るはずですよ。自分には、関係ないということではないのです。私も、これからもっと相手の立場を考慮して行動していきたいと思えます。交通事故を減らすために、あなたも今日から思いやりの心を持つように心掛けてみませんか？

## 「スケアード・ストリート」開催される

「スケアード・ストリート（恐怖の直視）」と呼ばれるアメリカ式の教育法を応用した交通安全教室が今、注目されています。平成十九年度、警察庁が安全教室のモデルとして導入をはかったもので、JA共済の協賛のもとに全国各地で実施されています。これは、スタントマンによる自転車交通事故の実演を通して、事故の恐ろしさを体験させ、安全運転の必要性を認識させるもので、県内では、すでに麻溝台、大和南、神奈川総合産業高校で実施されました。



三月十日、大和南高校で、県警察本部・大和署の協力により開催された交通安全教室では、荒天のため事故再現プログラムを変更し、体育館内で自転車と歩行者の衝突事故が再現されました。（写真）見学を終えた生徒たちは、「自転車同士の衝突でも大げがをする危険性を痛感しました。もし自動車と衝突をしたならば…」と口々に自転車による事故の恐ろしさを語っていました。